

今週（4月10日から4月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、10日にTB3M・TB6M発行超過の要因があり、当座預金残高は340兆円台半ばからのスタートとなった。その後は当座預金残高が横ばいで推移する中、積みの実質最終日にあたる14日には年金定時払いが行われ、当座預金残高は350兆円台後半となった。

無担保コールO/Nは、概ね▲0.06～▲0.02%のレンジで取引された。積み最終週となったことで、全体的に進捗を進める動きが強まり、13日までは調達意欲の強い展開となった。14日は大方の先が積みメドを付けていた事に加え、年金定時払い要因が重なり、▲0.07%付近と▲0.04～▲0.02%程度での出会いと、二極化する展開となった。無担保コールO/N加重平均レートは、13日までは▲0.035%前後、14日は▲0.04%台後半まで低下した。

ターム物は、ショートタームを中心に複数の出会いが見られた。固定金利方式の共通担保オペは13日に、2W・8,000億円がオフアーされ、落札額2,650億円(期落ち額2,980億円)となった。

●レボ市場

今週のO/N GCは、▲0.10～▲0.01%の広いレンジでの取引となった。週前半は前週からの流れを引き継ぎ、投資家の資金調達意欲が非常に強く、▲0.03～▲0.01%程度での引き合いとなった。しかし、12日のS/N(14-17)が積み最終日と新積み期にかかる取引となったことで、投資家の資金調達意欲が弱まり、出会いは▲0.07～▲0.06%と低下した。13日のS/N(17-18)は完全に新積み期の取引となり、投資家の資金調達意欲がさらに弱まったことで、レートは▲0.085～▲0.07%と低下傾向で推移し、14日T/N(17-18)では一部で▲0.10%の出会いも見られた。同日のS/N(18-19)も▲0.10%近辺での引き合いとなっている。

SCIは個別銘柄では5y125～131、10y334、10y336～346、20y160、30y49～54、40y9などのカレント銘柄近辺や、チーペスト銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、市場に短国余剰感が漂う中、短国買入オペの動向が不透明なことや、先週に3本の短国入札が連続で実施されたこと等の要因から、需給が悪化し、買い手不在の軟調なマーケットとなった。

13日には、3M物の入札が実施された。WI取引で▲0.135～▲0.13%の出会いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.1213%、按分落札利回▲0.1070%と軟調なマーケットを反映した結果となった。

14日は、短国買入オペが事前予想よりも多い1兆5,000億円で実施された。平均利回較差が+0.010%、按分落札利回較差が+0.005%と小甘い結果となった。応札額が5兆1,826億円と多く、業者の在庫が未だ積み上がっていることが窺えた。

●CP市場

今週のCP市場は、週間償還総額2,800億円程度に対して、週間発行総額5,900億円程度と発行超となった。五・十日に係る発行を中心に、商社、石油、不動産業態等から大型発行案件が実施されたが、新年度2週目でもあり、資金調達需要はさほど盛り上がりおらず、残高の積み上がりは鈍い。発行レートは、投資家の強い資金運用需要が継続しており、0%中心での決着となった。

14日は、CP等買入オペが前回と同額の3,500億円で実施された。前回のオペの結果（平均▲0.006%、全取▲0.10%）を受けてか、平均落札レート▲0.009%、按分落札レート▲0.029%と、平均は低下、按分は上昇となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
4/10 (月)	18,797.88	0.045	111.42	△ 0.037	△ 0.022	3,443,200
4/11 (火)	18,747.87	0.035	110.80	△ 0.037	△ 0.021	3,475,300
4/12 (水)	18,552.61	0.015	109.48	△ 0.036	△ 0.019	3,478,100
4/13 (木)	18,426.84	0.020	108.85	△ 0.034	△ 0.044	3,479,000
4/14 (金)	18,335.63	0.010	109.17	△ 0.047	△ 0.087	3,568,400

来週（4月17日から4月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/17 (月)	第92回信託大会にて黒田総裁講演				EURO、London祝日(Easter Monday)
4/18 (火)		TB1Y 23,000億円 4/20発行	5Y 22,000億円 4/20発行		3月の米住宅着工件数 3月の米鉱工業生産・設備稼働率
4/19 (水)		交付税借入 10,500億円 4/28借入			米ページブック 3月のユーロ圏消費者物価指数改定値
4/20 (木)	月例経済報告（内閣府） 3月の貿易統計（財務省 8:50）	TB3M 44,000億円 4/24発行	20Y 10,000億円 4/24発行		
4/21 (金)	2月の第3次産業活動指数（経済産業省 13:30）	交付税借入 10,500億円 5/2借入			3月の米中古住宅販売

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/17 (月)	600	▲ 20,000	▲ 19,400	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 3,000 ▲ 500 ▲ 100 3,500	2,700 300	2,900	▲ 16,500	TB3M発行▲44000償還40300 2Y発行▲22000償還10900 30Y発行▲8000 個人向け3・5・10Y発行▲2000 個人向け3・5・10Y償還2600
4/18 (火)	1,000	3,000	4,000	国債買入 短国買入		9,300 15,000	24,300	28,300	
4/19 (水)	0	5,000	5,000	CP買入		3,500	3,500	8,500	
4/20 (木)	▲ 2,000	▲ 33,000	▲ 35,000				0	▲ 35,000	TB1Y発行▲23000償還11700 5Y発行▲22000 エネルギー対策借入▲7000期日6000
4/21 (金)	▲ 3,000	5,000	2,000	被災地支援	▲ 1,100		▲ 1,100	900	交付税借入▲10500期日10500
週間合計	▲ 3,400	▲ 40,000	▲ 43,400	—	▲ 1,200	30,800	29,600	▲ 13,800	

4/17は日銀予想、4/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新しい積み期間に入ることにより様子見姿勢が強まると考えられることから、無担保コールO/N加重平均レートは今週と比べて低下することが予想される。

短国市場は、18日に1Y物、20日に3M物の入札が予定されている。14日の短国買入オペが15,000億円と、日銀による短国買入残高が横ばいになるようなペースで実施されたこともあり、入札レートが低下するかどうか注目したい。21日に実施が見込まれる短国買入オペのオファー額は1～1.5兆円程度になると予想する。

CP市場は緩やかに発行残高が積み上がっていくと予想される。CP等買入オペの按分レートは5日オファー分：▲0.10%（全取）、14日オファー分：▲0.029%と、4月に入ったにしては低く推移しているものの、発行レートは基本的に0%付近になると考えられる。

主要なイベントとしては19日のページブックなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入